

研究分野のキーワード：キャリア教育，進路指導，生き方教育，小・中学校

研究紹介

最近学校教育の場で、「キャリア教育」ということばを耳にする機会が増えてきているかと思えます。実際に、文部科学省を中心に、国を挙げて小学校段階からのキャリア教育を推進しているのですが、「キャリア教育」とはどのような教育活動なのでしょう？また、キャリア教育と並んで取り上げられることが多い、「進路指導」という活動はどのような活動なのでしょう？

おそらく今まさに進路選択を行おうとしている高校生のみなさんにとっては、「進路指導」であればイメージがしやすいかもしれません。進学先となる大学選択のイメージが真っ先に浮かんでくるのではないかと思います。もちろん進学先選択のための支援も「進路指導」の活動の一つですが、それは「進路指導」のすべてではありません。

「キャリア教育」の「キャリア」という言葉や、「進路指導」の「進路」という言葉は、実際には生き方や人生なども含む広い言葉として定義され、研究されている用語です。つまり、子どもたちが将来大人になり社会人として自立して生きていくために必要なことがらを、どのように学校教育の中で学ばせ、身につけさせていくのかを考えるのが、「キャリア教育」や「進路指導」の研究の一つであり、私の研究テーマです。

そのようなテーマについて、私は特に小学生・中学生を対象として研究を行っています。具体的には、将来自立した社会人として生きていくためには、どのような能力を身につけている必要があるのか、またそれらの能力はいつ頃からどのような形で身につけられるものなのかを、キャリア発達という視点から捉え、それらの能力を身につけさせるための効果的な教育方法を検討したり、実際にそのような指導を受けた子どもたちに、目標とする能力が身についたのかどうか調査用紙を用いて検証したりしています。

また、子どもたちに影響を与えるのは学校教育だけではありません。そこで、保護者や地域の大人、企業の方々と学校がどのような連携をとって子どもたちを育てていくことが望ましいのかを考えながら、教師がそのような方々とどのように連携をとり、どのような組織を作りながら教育を進めていくことが子どもたちのキャリア発達を促すのに効果的なのか検討しています。

教師は、単に子どもたちに知識を伝えることだけが仕事ではありません。これから様々な職業に就き（あるいは就かなくとも）人生を歩んでいく子どもたちに対して、前向きに人生を生き抜いていくことができるように必要な能力を身につけさせ、将来大人になることを楽しみにできるように大人たちが世の中を伝えていく、そうしたキャリア教育・進路指導のあり方・進め方を研究しています。